

## 03 道南口説節

### 昭和の時代によみがえって以来、広く愛され続ける民謡

江戸～明治時代に渡島・松山沿岸でニシン漁が活況の頃、越後から渡って来た目の不自由な瞽女(ごぜ)が、「新保(しんぼ)廣大寺くずし」の節に乗せ、北海道の地名を歌詞に取り入れて披露していました。その後、恵山岬から湯の川にかけての下海岸地域では漁師らが口ずさむ程度でしたが、函館在住の民謡歌手・佐々木 基晴さんが民俗芸能としての魅力に共感。荷積みした和種馬・どさんこを引く馬子の心情をとらえた馬子唄風に再編しました。独特の節回し、めりはりの利いた発声は、こぶしが命の現代の演歌に相通じるものがあります。



問い合わせ先	佐々木基晴さん
電話番号	0138-53-1098
FAX番号	0138-53-1096
編成	唄い手、三味線、尺八、太鼓
出演時間	1ステージ30分～1時間
出演料 備考	応相談 出演時間や出演料は内容により変動します。



歌の舞台となっている美しい岩礁が続く下海岸の一角。吹き付ける潮風を肌で感じながら、目的地に向かって荷積みのどさんこを引く馬子が、道中で唄を唱える姿が目に見えそうです。歌詞には、市内東部から中心部へ向かう際に通る町の地名が、次々と登場します。途中にある汐首岬は北海道と本州との最短地点にあたり、対岸する青森県下北半島の大間崎は約17・5km先です。終着地の「新川茶屋」は、現在の合同庁舎が建つ付近です。

市街地から函館空港へと向かう国道278号沿いで、野球場やラグビー場などのある根崎公園入口に建立されている石碑。佐々木さんの呼び掛けで発足した期成会が、1998(平成10)年9月に竣工させたものです。碑面には、抜粋した3つの代表的な歌詞が刻まれています。歌い出しの「オイヤーサーエー」、締め「サーエー」は、「新保廣大寺くずし」と同じ様式です。裏面の碑文には、道南口説節に対する熱い思いがこぼれています。